

血管新生促進因子Vasohibin2に対する中和抗体

アバスチンと比較した抗腫瘍効果をin vivoで確認済み

概要

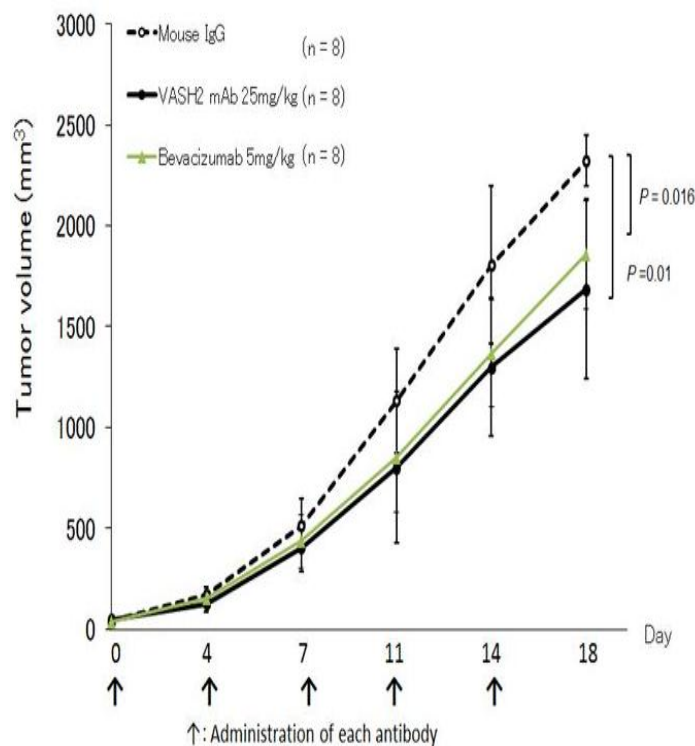
心筋梗塞などの虚血性心疾患や閉塞性動脈硬化症などの末梢性血管疾患では血管新生を促進する治療が報告されており、糖尿病や悪性腫瘍では血管新生を抑制する治療が報告されている。血管新生を制御する因子としてはFGF、VEGF、HGFなどが知られている一方、発明者はこれまでに血管新生抑制因子としてvasohibin1 (VASH1)、血管新生促進因子としてvasohibin2 (VASH2)を報告している。そこで発明者は、抗VASH2モノクローナル抗体を作製し、in vivoにおいて血管新生抑制効果と抗腫瘍効果を確認した。

効果・応用例

ヒト卵巣漿液性腺癌細胞株(SKOV-3)を播種したiBALB-cヌードマウスにおいて、本発明(25mg/kg)は血管新生阻害薬ベバシズマブ(5mg/kg)と同様にマウスIgG(5mg/kg)よりも高い抗腫瘍効果を示した。また、本発明はベバシズマブと同様に、マウスIgGと比較して有意な腫瘍の血管断面積の減少が認められ、個体レベルでの腫瘍血管新生抑制効果が確認された。

特許データシート
特許番号: WO2014/087810
発明者: 佐藤 靖史

SKOV-3を播種したマウスを用いたin vivo test



Day 0: When tumors become measurable (about 1 week after tumor inoculation)

連絡先

株式会社 東北テクノアーチ
TEL 022-222-3049 FAX 022-222-3419
お問い合わせは、[こちら](#) からお願い致します。

腫瘍面積における血管断面積比率

